



Title	<翻訳> バビロニア創造神話Enuma Eliš (2)
Author(s)	福原, 信義
Citation	大阪外国語大学学報. 1976, 37, p. 1-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80590
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

バビロニア創造神話 Enuma Eliš (2)

福 原 信 義

Enuma Eliš, the Babylonian Epic of Creation (2)

Nobuyoshi FUKUHARA

第 六 書 版 (つづき)

- | | | | |
|-----|---|-----|---|
| 121 | いざ、我らは五十の名を唱えよう | 136 | 彼に向かって人々は永えに讃美を唱えよ |
| 122 | 「彼の道はまことに輝かしく、その業も
まことに同様なるもの | 137 | (4) バラシャクシュは立ちあがり、(地
の)手網を握りしめた |
| 123 | (1) マルドゥクは、彼が生まれい出た
ときより父なるアヌが呼びなれた
(名) | 138 | 彼の心は広く、彼の腹は暖かい |
| 124 | 牧場と水場を備える者、彼らの廐を豊か
にする者 | 139 | (5) ルガルディンメランキアは、我ら
がこぞって唱える彼の名 |
| 125 | 武器なる大洪水で誹謗者を征伐した者 | 140 | 彼の口から出る命令を父なる神々の上に
我らは高めた |
| 126 | 父なる神々を災禍から救い出した者 | 141 | 真に彼こそ天地の諸神の主 |
| 127 | まことに、彼こそ太陽の子、神々の燦爛
たる者 | 142 | 上においても下においてもその紀律に神
々が脅える覇王 |
| 128 | 輝く彼の光明の中を彼らは永えに歩めよ | 143 | (6) ナリ-ルガルディンメランキアは
全ての神々の嚮導者と我らが呼ぶ
彼の名 |
| 129 | 彼が創造し、生命を授けた人々に | 144 | 難儀の中で天と地に我らの住み処を築い
た者 |
| 130 | 神々の労役を課し、神々は安楽な身とな
った | 145 | イギギらとアヌンナキらに座を割り当て
た者 |
| 131 | 創造と破滅、慰藉と恩恵が | 146 | 彼の名に神々は住み処で震え戦く |
| 132 | 彼の命令で現われ、彼らは彼に眼を向け
よ | 147 | (7) アサルルドゥは父なるアヌが名付
けた彼の名 |
| 133 | (2) マルッカはまことの神、彼こそ彼
らの創造者 | 148 | 真に彼こそ神々の光、雄々しき指揮者 |
| 134 | アヌンラキウの心を歓喜させ、イギギら
を和ませる者 | 149 | その名のごとく神々と地の守護神として |
| 135 | (3) マルトゥックはまことに国と都と
人々の避け所 | 150 | 壮烈なる一騎打ちの最中、苦難の中で我
らの住み処を救った者 |

151 アサルルドゥを第二に（８）ナムティッ
ラク、生命を支える神と彼らが名
付けた者
152 滅び去った諸神をあたかも自分が創造し
たごとくに復活させた者
153 聖なる呪文で死せる神々を蘇らせた主
154 抗命なる仇敵の絶滅者、いざ我らは彼の
武勇を称えよう
155 アサルルドゥ、その名は第三に（９）ナ
ムルと呼ばれた
156 我らの道を輝らす光明の神と」
157 彼の名の各々三つをアンシャルとラフム

とラハムが名付け
158 彼らの子なる神々にそれらが語られた
159 「我らは彼の名をそれぞれ三つ名付けた
160 我らの如く、汝らも彼の名を唱えよ」
161 神々は喜んで彼らの言葉に耳を傾けた
162 彼らはウブシュキンナで相談を交わした
163 「我らの復讐者、勇士なる子の（名を）
164 我らの扶養者のその名を崇めよう」
165 彼らは会議の席に連なり、彼の運命を宣
明し
166 彼ら全てがその聖域で彼の名を唱えた

第七書版

1 アサル、耕地の授与者、穀倉（？）を建
てた者
2 麦と豆の創造者、野菜を生えさせた者
3 （11）アサルアリム、忠告の家で敬われ
る者、忠言に秀でる者
4 恐怖を抱かず神々が望みを託す者
5 （12）アサルアリムヌンナ、鄭重に敬わ
れる者、彼の親なる父の光
6 アヌとエンリルとエアとニニギクの掟を
差し向ける者
7 彼こそ彼らの扶養者、彼らの分け前を振
り当てる者
8 その兜（？）が国に豊饒をもたらす者
9 （13）トゥトゥ、彼こそ彼らの復興を成
し遂げる者
10 彼は彼らの聖所を浄めて、彼らを慰ませ
よ
11 呪文をあみだし、神々を休ませよ
12 彼らがいきり立てば、彼は彼らを押しと
どませよ

13 彼は父なる神々の会議で崇められる
14 神々の誰とて彼に並ばない
15 トゥトゥは（14）ジウッキンナ、彼らの
全ての生命
16 神々のために聖なる天を築いた者
17 彼らの道をにぎりしめ、彼らの座を振り
当てる者
18 人間のもとで、彼が忘却されることなく、
彼の業を記憶せよ
19 トゥトゥを第三に（15）ジク、浄めを確立し
た者と彼らは名付けた
20 罵しき息吹の神、耳を傾け、それに答え
る主
21 富と財の創り主、豊饒の確立者
22 我々のいかなる乏しき物をも富裕に変え
た者
23 悲痛な災禍の中で、その麗しき息吹を我
らは嗅ぐ
24 彼らは語り、（彼を）崇敬し、彼を讃美
せよ

25 トウトゥを第四に (16) アガクと人々は
讃美せよ
26 聖なる呪文の主、死者を蘇らせる者
27 縛り上げられた神々に慈悲を垂れる者
28 彼の敵なる神々に課した軛を取り外した
者
29 彼らを救済するために人類を創造した者
31 生命を授ける力の潜む慈愛あつき者
30 彼の手が造りあげた頭の黒き者の口で
32 彼の言葉は永らえ、忘れ去られるな
33 トウトゥは第五に (17) トウク、彼の聖
なる呪文を彼らの口が唱えよ
34 その聖なる呪文で邪悪をことごとく撲滅
させる者
35 シャズ、神々の心を知り尽くす者、彼ら
の腹中を見抜く者
36 悪を為す者がそれから逃れることのない
者
37 神々の会議を確立、彼らの心を歓喜させ
る者
38 抗命なる者を鎮圧する者、彼らの広き庇
護
39 正義の施行者、ゆがんだ話を絶やす者
40 不義と正義を彼の許で洗い浄める者
41 シャズを第二に (19) ジスイ、謀反の輩
を鎮圧する者と彼らが崇めよ
42 彼の父なる神々の身体から狼狽を取り除
く者
43 シャズは第三に (20) シュリム、諸々の
敵を武器を持って破滅させる者
44 彼らの企みを粉碎し、風に飛散させる者
45 彼の前でおののきふるえる (?) 醜悪な
者をことごとく絶やす者
46 会議の席で神々は歓喜せよ

47 ジャズは第四に (21) ズグリム、父なる
神々に耳を傾ける者
48 敵を破滅させ、彼らの子孫を撲滅させる
者
49 彼らの業を打ち碎き、彼らの誰とて残さ
ぬ者
50 彼の名が国で唱えられ、叫ばれよ
51 ジャズは第五に (22) ザフリム、生物の
主 (?) と彼らは称えよ
52 全ての抗命なる仇敵をことごとく滅す者
53 逃亡した神々を全て御堂に連れ戻した者
54 この彼の名が確かなものとなれ
55 さらにシャズを第六に (23) ザフグリム
と全てにおいて彼らが称えよ
56 諸々の敵を戦場で破滅させたその者
57 (24) エンビルル、彼こそ彼らを豊かに
施す主
58 彼らに名前を授け、燔祭をそなえる雄し
き者
59 牧場と水場を整えて、国のために確かな
ものとした者
60 井戸を^{ひら}いて、豊かな水を配分した者
61 エンビルルを第二に (25) エパドゥン、
原野と洪水 (?) の主と彼らが唱
えよ
62 天地の灌漑者、畝を定める者、野に清き
耕地を拓いた者
63 堰と溝を整え、畝の堺を定める者
64 エンビルルを第三に、神々の耕地の灌漑
者 (26) エンビルルグガルと彼ら
は称えよ
65 豊饒と富裕と豊かなる収穫の主
66 富を授与する者、居住地を富ます者
67 黍を供給する者、穀物を現わす者

68 エンビルルは (27) ヘガル、人々の消費
に備えて豊饒を積み重ねる者
69 広き地に豊かな雨を注ぐ者、緑の芝を繁
らせる者
70 (28) スィルスィル、彼女ティアマトの
上に山を築き上げた者
71 ティアマトの屍を武器で運び去った者
72 国を導く者、彼らのまことの牧人
73 その髪が麦の畑、その兜が畝なる者
74 一騎打ちの場所を橋のごとく通り抜け
75 大海原^{オセアン}をたけり狂って渡る者
76 スィルスィルを第二に (29) マラフと彼
らは名付けた——さらに (?)
77 ティアマトは彼の舟、彼はその船頭
78 (30) ギル、穀物の貯えを巨大な丘と備
える者
79 大麦と黍の創造者、国の種を施す者
80 (31) ギルマ、神々の居所 (?) を確立
する者、確かなるものの創造者
81 彼らを結び合わせる輪、美しきものの付
与者
82 (32) アギルマ、崇^{ホカ}き者、不義の場所で
冠を打ち壊す者
83 水の面に地を創った者、上なる世界を確
立した者
84 (33) ズルム、神々に耕地を配分する者
創造物を割り当てる者
85 配当と食糞をささげる者、御堂の管理者
86 (34) ムンム、天地の創造者、………を
整える者
87 天地を浄める神は第二に (35) ズルムンム
88 神々の中には他にその力に並ぶもののい
ない者
89 (35) ギシュヌムナブ、全ての人々を創

造した者、四方界の創設者
90 ティアマトの神々を絶滅させた者、彼ら
の屍から人々を造った者
91 (36) ルガルアブドゥブル、ティアマト
の業を蹴散らし、彼女の武器を破
壊した者
92 前でも後でもその礎の堅固なる者
93 (37) パガルグエンナ、諸々の主の第一
人者、その力の高き者
94 兄弟なる神々の中で秀でたる者、彼ら全
ての崇^{ホカ}き公
95 (38) ルガルドゥルマフ、王、神々の絆
ドゥルマフの主
96 王権の住み処で秀でたる者、神々の中で
とびぬけて傑出したる者
97 (39) アランヌナ、エアの顧問役、父な
る神々の創造者
98 いかなる神とて宗主権の道で比類なき者
99 (40) ドゥムドゥク、聖なる住み処なる
ドゥクを新たにする者
100 ドゥムドゥク、彼なしにはルガルクドゥ
ガが決定を下すことの出来きぬ者
101 (41) ルガルランナ、その力が神々の中
で卓越したる霸王
102 主、アヌの力、アンシャルの呼び名 (?)
を踏み越える者
103 (42) ルガルugga、彼ら全てを大海^{オセアン}のた
だ中へ連れ込んだ者
104 諸々の英知を包含する者、広き理解の持
ち主
105 (43) イルキング、キングを戦闘の真っ
ただ中へ引き入れた者
106 全てに教示を伝達する者、主権の確立者
107 (44) キンマ、諸神の統率者、忠言の授

与者

- 108 その名に神々が暴風雨のごとく恐れ戦く
者
109 (45) エシズクルは祈りの家で高きところ
に座れよ
110 神々が彼の前に貢物を捧げ
111 彼から報酬を受け取れよ
112 誰とて彼なしには巧き物を造れない
113 四人の頭の黒き者は彼の創造物
114 彼の他に神々の誰とて彼らの日々への返
答を知らない
115 (46) ギビル、武器の先を堅固にする者
116 ティアマトとの戦闘で巧き物を造る者
117 該博なる知識と透徹した理解を備え
118 全ての神々が測り知ることの出来ない遙
かに広いその心
119 (47) アッドゥが彼の名となれ、天の全
てを彼は蓋い包めよ
120 彼の情深き叫び声が地の上に永らえよ
121 彼が雲の紊乱（ムンム）を解消し
122 下で人々に糧を施し与えよ
123 (48) アシャル、その名の如く運命の神
々を世話する者、彼こそ真に諸人
の夜のくつろぎを司る者
124 (49) ネビルは天地の往来を制御し
125 上においても、下においても神々が交差
し合うことなく、彼（の指示）を
持てよ
126 ネビル、空に輝く星
127 真に彼は中央の位置を占め、神々が彼に
ひれ伏し
128 かく言う、「大海のただ中を休むことな
く渡る者
129 彼の名は『渡り（ネリブ）』となれ、そ

の真中を握る者

- 130 空の星晨の道を確立せよ
131 羊の如く神々全てを養えよ
132 ティアマトを征伐し、彼女の生命が狭く
短くなれ
133 人々の未来まで、日々が古きものとなる
まで
134 彼女が絶えず退き、永遠に引き下がり
135 場所を創って、堅牢な地を彼が形づくっ
たから
136 父エンリルは彼の名を50『国々の主』と宣
明した」
137 イギギらが名付けたその称号の全てを
138 エアが聞いて、彼の魂が歓喜し
139 かく言った、「父たちがその名を壮嚴に
したてた者
140 真に彼は私の如き者、エアが彼の名とな
れ
141 私の全ての儀式的繋がりやを彼が取り仕切
れよ
142 私の全ての教示を彼が実行に移せよ」
143 大いなる神々が『五十』の称号で
144 その名が五十あるその彼を呼び、彼の道
を秀でたるものとした
（跋文）
145 それら（の称号）が確かなものとされ、
長なる者がそれらを説き明せよ
146 賢者と識者が共に（その称号について）
論じ合えよ
147 父が唱え、その子に伝えられよ
148 牧人と牧童の耳が開かれよ
149 彼が神々の主マルドゥクを享受し
150 彼の国は豊饒となり、彼は安泰となれ
151 彼の国は確かなもの、彼の命令は不変

152 彼の口から出るものは、いかなる神々と
 153 変えることがない
 154 彼は見て、首を返すことがない
 155 彼が怒れば、どの神とてその憤怒に立ち
 156 向うことが出来ない
 157 彼の心は大きく、彼の腹は広い
 158 罪人も違犯者も彼の前に進み来る
 159 長なる者（？）が彼の面前で語り

《關連資料》

1. マルドゥクの世界創造

- 1 神々の家、聖なる館が聖なる場所に作ら
れていなかった
- 2 葦は生え出ず、木は創られていなかった
- 3 煉瓦が敷かれず、煉瓦の型枠が拵えられ
ていなかった
- 4 家は作られず、町が建てられていなかっ
た
- 5 町が作られず、生きものが（そこに）配
置されていなかった
- 6 ニップールがつくられず、エクルが建て
られていなかった
- 7 ウルクがつくられず、エアンナが建てら
れていなかった
- 8 ^{アツミ}深淵がつくられず、エリドゥが建てられ
ていなかった
- 9 神々の家、聖なる館なるその住み処がつ
くられていなかった
- 10 国々は全て海で
- 11 海の中の泉は水の管であった
- 12 そのときエリドゥがつくれ、エサギラ
が建てられた ——

28 牡牛とその牝牛、羊とその小羊囲いの羊
を
29 果樹園と森林を
30 野生の羊と山羊（？）………を（創^{つく}）
31 主マルドゥクは海の沿に堰を推み上げ
32 [] 沼地を陸にした
33 [] 据え付けた
34 葦を創り、木を創った
35 [] 所に創った

36 [煉瓦を敷き、煉瓦] の型枠を拵えた
37 [家をつくり]、町を建てた
38 [ニップールをつくり]、エクルを建て
た
39 [町をつくって]、（そこに）生きもの
を配置した
40 [ウルクをつくって]、エアンナを建て
た
（以下破損）

2. 生きものの創造

1 会議に臨んだ神々が[万物（？）]を創
造し
2 蒼穹を現わし、地を固め
3 [全ての種類の（？）] 生きものをつく
り []
4 野の家畜と野の獣と[町の] 動物を[つ
くった] とき
5 生命のあるものに[彼らは]
6 スムカンの家畜と町の動物とに[彼らの

分前を] 配分し
7 諸々の動物と全ての造物を []
8 [] 私の一族全ての中で [] し
た] あとで
9 ニニギクは二つの小さなものを[拵えた]
10 諸々の動物[の中でそれらを最も] 見事
に仕上げた
（以下破損）

3. 「アヌが天を創造した時」

24 アヌが天を創造し
25 スディンムドが彼の住み処、^{アブス}深淵を創っ
たとき
26 エアは深淵の中から泥を摘み取り
27 [神殿を] 新たにしようとクッラを創っ
た
28 普請の事業のために葦と森を創った
29 普請の事業を完きものとするためにニニ
ルドとニンシムグとアラズを創った
30 いかなる [] 山と海を創った

31 グシュキンバンダとニナガルとニンザデ
イムとニクッラを彼らの事業の
ために創った
32 そして供物のための豊かな産物 []
33 アシナンとラハルとスイリスとニンギッ
ダとニンエゼン [] を創った
34 豊富な犠牲を奉げるために
35 彼らの供物を納めるためにウムンタム
クとウムンタムナクを創った
36 儀式と祭儀を取り持つために大いなる神

々の大祭司クシグ神を創った
37 〔神殿を〕維持するために王を創った

38 神々の労役を行なうために人間を創った
(以下破損)

4. 人間の創造(1)

1 天が地から別れ、遙かなる忠実な双生児
となり
2 女神たちの母が生れ出た時
3 地が現われ、地が形づくられた時
4 天地が運命が定められた時
5 溝と運河が正しい道筋を与えられ
6 ティグリスとユーフラテスが堅固にされた時
7 (その時) 大いなる神々
8 アヌとシャマシュとエアと
9 大いなる神々アヌナキらが
10 至高なる聖所に座って
11 創造されたものを彼の間で数えた
12 「天地の運命が定められ
13 溝と運河が正しい道筋を授けられ
14 ティグリスとユーフラテスが
15 堅固に築れたからには
16 何を えようか
17 何を創ろか
18 アヌナらよ、大いなる神々よ
19 何を俵えようか
20 何を創ろうか」
21 そこに臨席した大いなる神々と
22 運命を定めたアヌナキラと
23 彼ら両の群がエンリルに答えた
24 「天地の絆なるウズムアで
25 (二柱の) ラムガ神を刺し殺そう
26 その血で人間を創ろう
27 神々の労役は彼らの課業となれ
28 永遠に

29 境界の堀を維持するために
30 鍬と籠とを
31 彼らの手に持たせるために
32 崇高なる聖所に見合った
33 大いなる神々の住み処のために
34 畑と畑を区別するために
35 いつまでも
36 境界の堀を維持するために
37 溝に正しい道筋を与えるために
38 境界石(?)を守るために
39 地の四方界を水で潤すために
40 草木を豊かに育てるために
41 雨(?)

(裏面)

1 境界を守るために
2 穀倉を満たすために
(3-5行破損)
6 アヌナキラの畑を豊かに実らすために
7 国の豊饒を増大させるために
8 神々の祭を祝うために
9 冷水を注ぐために
10 崇高なる聖所に見合った神々の大いなる
住み処に
11 ウッリガッラとザルカッラと
12 彼らの名を呼べ
13 彼らの牛、羊、家畜、魚と鳥を殖すよう
15 エヌルとニヌルが
14 地の豊饒を
16 彼らの聖なる口で確立した

17 主権を持っに相応しい神々の淑女アルル
が
18 彼らに大いなる運命を決定した
19 地から生える穀物のごとく自から躍り出
て
20 熟練者は熟練者のために、未熟練者は未
熟練者のために生産すること
21 空の星の如く永遠に変わることなき物（を
決定した）
22 昼も夜も

23 神々の祭を祝うよう
24 彼らが自から
25 （これらの）大いなる運命を
26 アヌとエンリル
27 エアとニンマフ
28 大いなる神々が（彼らのために）定めた
29 人間が創造された場所で
30 その場所でニサバが確かなものとされた
31 賢者が賢者にその秘事を説き明せよ

5, 虫と虫歯

1 アヌが天を創り
2 天が地を創り
3 地が河を創り
4 河が溝を創り
5 溝が沼を創り
6 沼が虫を創ったその後で
7 虫は泣きながらシャマシュの前に進み出
た
8 エアの前へその涙が流れた
9 「あなたは私の飲物に何を授けて下さる
のですか
10 あなたは私の飲物に何を与えて下さるの
ですか」
11 「お前に熟れたいちじくと
12 杏をやろう」
13 「この私にそれらが何になるというので
すか
14 熟れたいちじくと杏とが！
15 私を引き上げて

16 歯と歯肉の間に住まわせて下さい
17 （そうしたら）歯の血を私は吸います
18 歯肉の中で歯の軟骨（？）を
私はかじります」

20 針を差し込み、（虫の）足を掴まえよ

21 お前がこのことを言ったからには、虫よ
22 エアが
23 その拳の
24 力でお前を打ちのめせ

24 虫歯への呪文
25 その儀法 ……麦酒と……草と油をい
っしよに捏ね
26 それに呪文を三遍唱え、彼の歯の上に（
その軟膏を）付けよ
(つづく)